

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年2月24日 NO.89



花ちゃん 「うわあー、オオイヌノフグリだわ。」

オー君 「おいらも知ってるよ。早春（そうしゅん）にいち早くさく花だね。るり色の花、コバルトブルーのきれいな花だね。」

花ちゃん 「この花は、春のおとずれを感（かん）じさせてくれる花ですね。」

オー君 「名前がちょっとかわいそうな植物なんですよ。」

モンタ博士 「よく知ってるね。なぜ、かわいそうなんだっけ。」

オー君 「『ふぐり』というのは、あれのことなんですよ。」

モンタ博士 「そうだよ。ふぐりとは、陰囊（いんのう）、すなわち睾丸（こうがん）のことだね。そのものズバリと『イヌノキンタマ』とよぶ地方もあるんだよ。花の実（み）が、後ろから見た犬のふぐり（きんたま）そっくりだからね。」

花ちゃん 「モンタ博士、オオイヌフグリというのは、帰化植物（きかしよくぶつ）なんですよ。」

モンタ博士「そうだよ。日本にはもともと『イヌノフグリ』という植物があるけど、これは、今ではなかなか見つけれないね。花の色が少しピンクっぽいんだ。本物のイヌノフグリはモンタ博士もあまりお目にかかれなないね。もし、国立にあったら大発見だ。すぐに、すぐに、モンタ博士に教えてほしいね。」

オー君 「イヌノフグリというのは、そんなに珍（めずら）しいの。ふーん。それじゃ、こんどおいらも探（さが）してみるね。」

モンタ博士「オオイヌフグリばかりが目立つけど、もう一つ、よく似た仲間（なかま）で、『タチイヌノフグリ』というのもあるんだ。これは、すこしさくのがおそいかな。花は小さく、莖（くき）が立っているんだよ。ところで、左の写真を見て、何か気がつくことはないかな。」

オー君 「青い花だけど…特別（とくべつ）にこれとって…気がつくことはないな。」

花ちゃん 「そうね、青い花びらに、さらに青いスジがあるだけです。」

モンタ博士「なぜ、スジがあるのかな。考えてみようよ。」

オー君 「青いスジは、花のまん中にむかって集まっているようだけど・・・。」

花ちゃん 「そうね、まん中にむかっているわ。」

モンタ博士「まん中にむかってスジがあるということは・・・そこに何かあるのかな。」

オー君 「花が咲（さ）くのは、実をつけるためだけ、そのためには、受粉（じゅふん）ーおしべの花粉がめしべにつくこと）しなくてははいけないし、そのために、虫が来て・・・あ！そうか。なぞはすべとけた。4枚の花びらには、まん中にむかっているスジは、蜜（みつ）のありかを示すガイドラインなんだ。」

オオイヌノフグリのつぶやき

私の学名は『ペロニカ』というの。重い十字架を背負って刑場に向かうキリストの顔の汗をふいてあげた女性のハンカチに、キリストの顔が浮かび上がるという奇跡が起きたの。この女性の名がペロニカなの。私の美しい花をよく見ると、花の中にキリストらしい人の顔が浮かび上がってこないかしら。これがペロニカと呼ばれる所以（ゆえん）であるのよ。どう、私って本当はとっても高貴な名前なのよ。日本でも『星のひとみ』という地方もあるのよ。英名ではキャッツアイ（猫の瞳）。フグリ呼ばわりしてはかわいそうと、『瑠璃唐草』（るりからくさ）や『瑠璃鋏形』（るりくわがた）という名前も提案されたくらいなのよ。くわがたと言うのは、花の二つのおしべがくわがたの角に似ているからなのよ。